



2011(平成23)年11月15日発行 **50th Anniversary**

としまの四季

発行所/東京都豊島区東池袋1-20-10 豊島区民センター2階
〒170-0013 Tel & Fax 03-3981-5849

50周年記念 顧問会議 & 記念式典と祝賀会

11月4日(金)滞りなく終えて

豊島区観光協会創立50周年記念式典及び祝賀会は、11月4日(金)午後6時から池袋駅西口のホテルメトロポリタン3階「富士」を会場に、来賓を含む約250人が出席して開催。

《記念式典》

司会者の豊田順子さん(日本テレビアナウンサー)が開式を出席者に伝え、式典実行委員長の平井熙副会長が開会の辞を述べて始まった。(写真下は功労者表彰)



まず、齊木勝好会長と当協会名誉会長の高野之夫豊島区長が主催者挨拶。続いて功労者表彰に入り、第5代会長竹内哲夫、第6代会長望月仁(病気療養中につき代理出席中原一成)、第7代会長岡本重史、副会長など永年協会運営に尽力した池田覚(元サンシャインシティ取締役)、高瀬西帆(現副会長)の5氏に、その功労を賛えて感謝状と記念品を贈呈。これに対して受賞者を代表し、竹内哲夫氏が受賞の喜びを述べた。

続いて多くの方々から寄せられた50周年記念式典への祝電披露。当協会と交流関係にある各地の観光協会から寄せられた祝電をはじめ、豊島区と姉妹都市提携

- 16:30 顧問会議 開会挨拶/高瀬顧問会議担当委員長
基調講演 高野之夫豊島区長
「セーフコミュニティ認証取得について」
シンポジウム パネリスト/鈴木誠一郎(株)サンシャインシティ代表取締役社長、田村和久(株)鴨信用金庫理事長、澤田博司(株)日本ホテル代表取締役社長、近江正典(法明寺)住職、吉岡知哉(立教大学)総長(発言順)
コーディネーター/齊木会長
総評/高野之夫豊島区長
- 18:00 50周年記念式典 開会の辞/平井熙実行委員長
主催者挨拶 齊木勝好会長 高野之夫豊島区長(当協会名誉会長)
功労者表彰 受賞者/第5代会長竹内哲夫、第6代会長望月仁、第7代会長岡本重史、副会長等歴任池田覚、副会長他広報担当高瀬西帆の各氏
受賞者代表挨拶 竹内哲夫氏
祝電披露 閉式
- 19:00 祝賀会
主催者挨拶 齊木勝好会長
乾杯 沖永寛子(帝京平成大学)学長
インタビュー 来賓紹介
映像で綴る協会の50年 DVD制作/田島隆史(常任理事) ナレーター/星京子(常任理事)
東京音大生による演奏 指揮/坂本和彦先生
ラデッキー行進曲の中、出席者をお見送り
- 20:30 閉会

50周年記念誌を発刊



豊島区観光協会50周年記念誌

協会の50年の歩みを記録した「豊島区観光協会50周年記念誌」を、記念式典の当日、会場で列席者に配布した。

A4判、本文68頁 カラー、全90頁。トップに協会顧問をはじめ秩父、遊佐、川越の観光協会長、地域の各団体の長や衆議院議員、都議会議員、区議会議長、警察署長、消防署長らの祝詞を16頁にわたって所載。下段スペースには協会が1988年から10余年にわたって募集した「みつけよう私のとしま」写真

コンテストの入賞作品から、豊島区内各地域の写真をピックアップして紹介している。

「50年の歩み」では年表をトップに50年の歴史を「協会創立への動き」「創立から20年」「本格的に始動」「都市型観光への脱皮」「観光は産業である」「地域の魅力再生へ」「豊島の観光 今日・明日」の7つのパートで構成し、それぞれの時代を特徴づけて、一つのストーリーとなっている。巻末には記念写真集と役員名簿、会員名簿。観光協会らしい冊子となっている。

豊島区観光協会賞

9月1日から1か月間、47劇団が参加して豊島区内及び近隣の16会場で開催された「第23回池袋演劇祭」での当協会賞は、CAPTAIN CHIMPANZEEの「思いの鳥」が受賞した。

10月9日に池袋駅西口駅前一带を会場に開催された「第12回東京よさこい」での豊島区観光協会賞は、豊島区の「なな丸隊」が受賞した。

東京フラフェスタ in 池袋2011

94チーム約2,600人が出場する大イベントに。今回は当協会創立50周年記念イベントとして開催。ステージも従来の4会場に新たに池袋駅西口駅前広場が加わって5会場に。

東日本大震災の影響が懸念され、また、節電が大きくクローズアップされてスケジュール編成に苦労した面はあったが、例年以上に華やかで熱いステージを展開した。スペシャルゲスト「太田紀美子とザ・バーズ」と「ロヒロヒ」の出演、インターナショナル・ワイキキ・フラ・カンファレンスに豊島区代表として出場した歴代チームによる特別ステージなど見どころもいっぱい。加えて「みんなで踊ろう！ フラナイト」を企画、来場者も参加しての楽しいフラタイムが会場を盛り上げた。各地から、ますますの注目をあびての、大イベントになろうとしている。

大塚阿波踊り

大塚の夏の一夜を彩る恒例のイベント「大塚阿波踊り」は8月20日(土)午後3時から開催された。今回は節電など諸々の事情を考慮して早めからの時間帯での開催で、節電&チャリティ型イベントに。開催日も週末の土曜日となったが、大塚の街自体が複合ビル建設の情報などがあって盛り上がっていて、例年に増しての活気あるイベントとなった。

サンシャイン水族館開館

全館リニューアル工事のため休館していたサンシャイン国際水族館が、名称を「サンシャイン水族館」と改めて8月4日オープン。新水族館のコンセプトは“天空のオアシス”。開館後は大きな話題となって、連日、入場を待つ人の列でごったがえした。その勢は今も続き、池袋のニュースポットに。

すがも中山道菊まつり

歴史を重ねる巣鴨、秋の風物誌「すがも中山道菊まつり」は、10月6日から14日まで地蔵通り入口の真性寺と、中ほどの高岩寺を中心に開催して、多くの善男善女を中心に若い人や子どもまで、人気の菊の型造りや多彩な展示に、秋晴れのひとときを平和なひとときとしていた。

あるいは災害協定締結の地方都市からの祝電多数が司会者から披露された。

《祝賀会》

記念式典終了午後7時。ただちに祝賀会に移行。会場「富士」を一杯にしての中、齊木勝好会長が挨拶。続いて帝京平成大学学長の沖永寛子氏（当協会顧問）の発声で乾杯、祝宴に入った。本来なら記念式典及び祝賀会では、来賓の方々からご祝辞をいただくべきところだが、前以てご祝詞をいただき、この席上で配布した「50周年記念誌」に全文を顔写真入りで所載。当日席上での挨拶にかえさせていただいた。

歓談、会食の進む中、星京子常任理事がインタビュアーとなって各テーブルにおもむき、来賓の方々にインタビュー。やがて場内が薄暗くなり、映像で当協会の50年の歩みとその活動状況が写し出され、星京子常任理事がナレーション。昔の池袋をなつかしむなどしながら見入った。

午後8時15分、東京音楽大学・坂本和彦先生の指揮と「アンサンブル未来」の演奏、そして「ラデッキー行進曲」の中、司会者が閉会を告げ、全員が手拍子で来賓を見送り、午後8時30分、50周年の記念式典と祝賀会をとどこおりなく終了した。



50周年記念 第7回顧問会議

当協会創立50周年記念「第7回顧問会議」は、11月4日(金)の記念式典及び祝賀会に先立って、ホテルメトロポリタン3階「光」を会場に豊田順子さんの司会と高瀬西帆実行委員長の開会の辞で開催。

今回は、豊島区が取り組むWHOの「セーフコミュニティ認証取得」への活動を取りあげ、高野之夫豊島区長から約20分の基調講演を聞き、齊藤参事から映像を使っただけの解説を受けた。

続いて、齊木会長がコーディネーターとなり、本日のパネラー、鈴木誠一郎(株)サンシャインシティ代表取締役社長、田村和久(株)サンシャインシティ代表取締役社長、澤田博司(株)日本ホテル代表取締役社長、近江正典(法明寺)住職、吉岡知哉(立教大学)総長の5顧問から、それぞれのお立場からみた「セーフコミュニティ認証取得」へのご高見をいただいた。

その後、高野豊島区長が総評し、齊木会長が「時間の制約のある中、ご協力ありがとうございました」と感謝して閉会した。



50周年記念 お国自慢in池袋

当協会50周年記念事業として「お国自慢in池袋」を「東日本大震災復興支援事業」として、11月5日(土)、6日(日)の両日、池袋駅西口駅前広場、池袋西口公園、アゼリア通りを会場に開催。

出店自治体は岩手、福島、秋田、青森、山形、宮城、新潟、長野、富山、栃木、埼玉、静岡、岐阜、長崎の14県、27自治体に及んだ。各自治体からは名品・名産が顔をそろえ、湯沢・なにやと物産、越後もちふた焼、那珂川バトウ手づくりハム、福島・只見名物マトンケバブ、川越のつばさかりん、秩父の各種味噌……など各地の“お国自慢”が店頭をにぎわせ、多くの人がつめかけて池袋西口公園は憩う人たちでいっぱい。

西口公園の舞台や池袋駅西口駅前広場では各自治体のPRやパフォーマンスがくり広げられた。片側車線を通行止めにしてのアゼリア通りの会場では、ケータリングカーが並んで多国籍フードが、人々の食欲を刺激していた。当イベントの実行委員長を務めたのは渡邊裕之副会長。

豊島区セーフコミュニティ認証

取得応援ツアーに参加して

副会長 平井憲太郎

豊島区が目指す「セーフコミュニティWHO認証」を応援するため、スウェーデン・ファールン市で開催された国際会議「2011年セーフコミュニティ コンファレンス」に出席し、合わせて、すでに認証されている同市とノルウェー ベルゲン市を訪ねるツアーを、東商豊島支部と当協会が共催して実施。高野豊島区長 齊木当協会会長、鈴木東商豊島支部会長ら25名が参加した。一行は9月4日に成田空港を立ち、スカンジナビア航空でコペンハーゲンを経由してストックホルムへ。翌日は市内観光をし、9月6日、今回の第一目的地であるファールン市に入る。

昼過ぎの到着後、早速同会議の長であるリーフ・スヴァンストローム氏（スウェーデン カロリンスカ大学教授）から直接、認証についてのレクチャーを、1時間余りに亘って受けた後、セーフコミュニティ活動の実践例としてファールン市長の案内で美しい老人ホームを見学。（写真下）



夕刻から荘厳な教会で行われた開会式、ホテルで開催の歓迎晩餐会に全員で参加。晩餐会では2012年に豊島区での開催が決まった同会議のアジア地域会議の資料を、女性参加者が中心になって配布し、豊島区の認証取得、さらには対外広報に一役買う一幕も。

翌7日、ウプサラ市やスウェーデン王室の王宮、ドロットニングホルム宮殿を見学してストックホルムに戻り、8日の航空便でノルウェー、ベルゲン市へ直行。



第20回記念セーフコミュニティ会議を前に、スウェーデン・ファールン市の会議場で、リーフ・スヴァンストローム教授を囲んで記念撮影。左に高野豊島区長、鈴木東商豊島支部会長、右が齊木当協会会長。

飛行場からは昨年開業したばかりのトラムに試乗してライトレールのすばらしさを実感。高野区長と齊木、鈴木両会長、齊藤室長はセーフコミュニティ認証都市ベルゲン市長を訪問して情報交換した。

9月9日、実質的なツアー最終日。フィヨルドの見学へ。ベルゲンから鉄道で2時間ほどのミュルダルに向かい、そこから標高差 860m以上をわずか20kmで一気に下るフロム鉄道に乗車して、深い谷や大きな滝などの景観を楽しみながらアウルラン・フィヨルドの最奥部の小さな町、フロムへ向かった。

ノルウェーからスウェーデン 実り多いツアーに

フロムから観光船で約1時間、水面から見るフィヨルドの絶景を楽しみながら、世界自然遺産に指定されているネーロイ・フィヨルドの最奥部のグドヴァンゲンに到着。わずか半日ほどのフィヨルド観光だったが天候に恵まれ、参加者全員が大いに大自然を堪能することができた。

翌日、早くも帰国日。ベルゲン午前発の便でコペンハーゲン経由で成田空港へ。

6泊8日の行程中、参加者全員が元気ですべてのスケジュールをこなして、応援と視察という二つの目的も十分に達成して、実り多いツアーとなった。

当協会は、豊島区が推進するWHOの「セーフコミュニティ認証取得」への応援ツアーを、9月4日(日)から11日(日)、6泊8日で東商豊島支部と共同で実施。齊木当協会会長、鈴木東商豊島支部会長を含む25名が、高野豊島区長に同道して実施した。